

大道久馬の綿花栽培

今から百五十年ほど前、大道久馬という人がひょう然と下手渡村にやって来た。どこの国の、どこの生れか知る人は誰もいなかった。しかし久馬は黙々として農業にはげみ、殊に陸羽地方で栽培していた綿の栽培をとり入れ村民を指導していた。久馬は元武士であつたが、何か感ずるところがあつて武士を捨てて、この地に帰農しまじめな百姓となつて働いた。下手渡の蟹沢の地に俗称大道久保というところがある。久馬はここに屋敷を構えておつた。現在の字名「作の内」は久馬の屋敷の柵の内であつたといわれている。又お釣屋敷とか長蛇屋敷などは久馬の別宅（別荘）であつたという。久馬は馬が好きでこれを飼ひ、その飼料として麦を作つたという。この村での大麦・小麦の作付けの始めだともいわれている。

久馬が栽培した綿花は、明治の初めまでこの地で作られ、村の人々の生活をうるおすことになつたという。時は去り、社会は大きく變つても、この地方の産業開発を思う時、大道久馬の名はながく下手渡の地から消えないであらう。

しかし久馬のその後は誰も知る人がいない。

また、その墓も下手渡には見当らない。